若手会員の会　活動報告

http://jweld.jp/welnet/index.html
（若手会員の会からのお知らせはホームページにも掲載しています）

この２年間の活動まとめ報告とご挨拶

若手会員の会運営委員会　委員長　寺崎 秀紀（大阪大学接合科学研究所）

Acknowledgments of two years activities of WELNET

平成 22 ～ 23 年度にかけて，若手会員の会運営委員会（以下，若手の会）委員長を務めさせていただきました．この期間におきましては，多くの方々のご協力を賜り，本会の活動を維持することができました．この度は任期修了にあたって，本稿を執筆する機会を頂きましたので，瞬く間に過ぎた日々を思い出しながら，感謝の意を綴らせていただきたいと思います．

若手の会における有意義な行事の一つである研究会・見学会の開催に，運営委員会一丸となって注力した２年間でした．平成 22 年度のはじめに，溶接学会北陸支部，富山県工業技術センター，富山県溶接協会の共催，高岡アルミニウム懇話会の協賛行事として同会を開催しました．開催地においては富山県工業技術センター中央研究所の冨田　正吾氏を中心に，本会の準備を進めていただきました．おかげさまで，若手の会からは２名（佐藤 裕氏，川人　洋介氏），富山県工業技術センターから３名（石黒　智明氏，柿内　茂樹氏，冨田　正吾氏），石川県工業試験所から１名（舟田　義則氏）のご講演からなる研究会を，富山県工業技術センター内の技術開発館ホールにて，68 名の参加を得て開催することができました．産業都市高岡での開催に沿った講演内容で研究会のプログラムは構成され，軽金属の溶接・接合プロセスに関する魅力的な講演が展開されました．見学会においては，ワシマイヤー株式会社（餅川　昭二氏，木下　昌三氏による案内）と株式会社ヨネダアドキャスト様（前田　孝雄氏，地山　秀治氏による案内）にお世話になりました．産業都市でありまた伝統工芸で著名な高岡ならではの見学会プログラムであり，参加者全員でものづくりの現場のアイデアや品質保証にかける技術者の想い，真摯な取組を見聞させていただいた貴重な機会でした．

平成 22 年度後期には，広島県立総合技術研究所主催の「溶接技術研修」プログラムの一環として，若手の会メンバー（佐藤　裕氏，門井　浩太氏，西川　宏氏，川人　洋介氏，寺崎　秀紀）と広島県立総合技術研究所研究員（坂村　勝氏，大石　郁氏，門　格史氏）による共催研修会を開催しました．若手の会運営委員でもある西部工業技術センターの門　格史氏が中心となってお世話いただきました．新しい形の共催形態であり，今後の若手活動の一形態として，いい前例ができたと考えられます．門氏が，「大学－公設試－地元企業をつなぐ“きっかけづくり”」と表現されたとおり，地元企業から多数の参加者（33 名）を得て，好評であったと後日お知らせいただいきました．さらに，株式会社キーレックス（山路義明氏，畠山　健一氏の案内）の見学会も門氏を中心にご企画いただき，自動車部品製造現場における多様な溶接工程（特にレーザ溶接工程とそのモニタリングの取組

が印象深かった）を見学する，貴重な機会に恵まれました．

平成23年度前期には，溶接学会九州支部共催行事として沖縄工業高等専門学校に於いて研究会を開催いたしました．沖縄高専の真鍋　幸男先生，大阪大学接合科学研究所の田中　学先生の特別講演を皮切りに，大学（川人　洋介氏，佐藤　裕氏，田代　真一氏，野村　和史氏，藤井　啓道氏，高嶋　康人氏，門井　浩太氏，寺崎　秀紀），企業（成田　竜一氏），工業技術センター（瀬知　啓久氏）の溶接・接合に関する研究内容が紹介されました．特別講演では，溶接・接合の研究の懐の深さと最新の成果を存分に紹介していただき，本研究会の主題である，“溶接・接合工学の魅力”そのままのご講演内容でした．各分野・立場での溶接・接合研究の内容を一覧できる機会は，貴重であり，講演者自身が大いに楽しめた会であったといえます．また，参加者の一人の沖縄高専の学生さんが，溶接・接合に関する研究を行うために大学院試験を受験され見事合格された，という朗報が後日届くというおまけもありました．特別講演を頂戴しただけでなく，準備等におきまして，真鍋　幸男先生には大変お世話になりました．また，琉球大学の松田　昇一氏，沖縄県工業技術センターの羽地　龍志氏，松本　幸礼氏，棚原　靖氏にも準備等大変お世話になりました．九州支部のとりまとめに関しては，九州工業大学の北村　貴典氏にお世話にいただき，おかげさまで多数の参加者を得ることができました．

この沖縄における研究会のもう一つの内輪的な主題には，若手の会の世代交代がありました．現在，若手の会の幹事は第二次ベビーブームと呼ばれる世代であり，その年齢は40歳前後に分布しています．我々としては，この有意義な集まりの伝統を伝えていきたい，という想いも副次的にあり，この機会に積極的に次世代の若手の会を構成する方々を積極的にお誘いしました．偶然ですが，人口ピラミッドとして表現したときに，第二次ベビーブームの裾にあたる世代の方々（本稿では以後，新若手と参照）が多数参加し，講演も引き受けてもらいました．つまり，若手の会の伝承は成功したわけです．

平成23年度後期には，新若手のメンバーが中心となって研究会・見学会を企画，開催しました．三菱重工業株式会社における研究会と同高砂製作所の見学会でした．三菱重工の佐々木　裕一氏，川崎　憲治氏には大変お世話になりました．副委員長（H22-23期）の成田　竜一氏にも会の準備等大変お世話になりました．若手の会に現状なにか問題があるとすれば研究会・見学会への企業の方（本会運営委員会メンバー）の参加数が少ないことです．その中で，成田氏には，ほとんどの行事に参加していただき，この２年間で大活躍していただきました．企業の方の発表が加わることで，研究会の講演内容にさらなる厚みが生じました．お忙しいところのご活躍を大変感謝するとともに，成田氏と出身研究室（大学院）が同じで良かったとつくづく感じた次第です．研究会では新若手のメンバーが中心となって，多様で，興味深い最新の研究が紹介されました（門井　浩太氏，三上　欣希氏，高嶋　康人氏）．見学会では，タービンの製作現場を見学させていただき皆で溶接部を探しながら，大いに楽しみ・感動しました．案内にあたっては，林　将太氏に大変お世話になりました．

諸行事の企画・運営は若手会員の会幹事の皆様と共に行ってきました．常に冷静な意見で会を纏めていただいた副委員長の西川　宏氏：煩雑な会計業務をこなしていただいた門井　浩太氏：溶接学会誌Welnetのコーナーの調整・編集に尽力いただいた，川上　博士氏，松下　宗生氏，荻原　寛之氏，高嶋　康人氏：若手会員の会運営委員会のホームページ（http://jweld.jp/welnet/index.html）およびメーリングリストの整備等，広報活動に尽力いただいた三上　欣希氏：日中韓という新しい枠組みの行事に対応していただいた，山本　元道氏，瀬知　啓久氏，門　格史氏：全国大会イブニングフォーラムの企画・準備・運営（「製造現場における溶接技術の各種事例」講演：木坂　有治　氏，山田　順也　氏，加藤　剛　氏）を担当していただいた，尾崎　仁志氏，木坂　有治氏：全国大会ポスター行事の企画・準備・運営を担当していただいた田代　真一氏，松原　敏夫氏，野村　和史氏：学会本部として，本会の運営をサポートしていただいた松尾　泰子氏，以上すべての方々のおかげで，２年間の本会の運営が滞りなくまた成功裏に終了しました．

“新若手”の会の運営がすでに始まっております．本会の活動に手を差し伸べていただいている皆様の，引き続いてのご支援・ご協力をなにとぞよろしくお願い致します．